

共に歩んで行ける県連小に！

県連小速報

令和8年度 No 2

7月24日発行

広島県連合小学校長会事務局
広島市東区光町一丁目 11-5-1003
TEL082-263-6381 FAX082-262-3822
E-Mail: kenrensho@do8.enjoy.ne.jp

県連小第2回理事会を開催

7月2日(木)午後1時半から、広島市東区民文化センターで第2回理事会を開催しました。

理事会は、高尾会長のあいさつ、全連小報告、各委員長からの活動状況報告に続いて、清田副会長が議長となつて、総会・教育研究大会について、中国地区小学校長会理事会・研修会について、県教委への要望書等について、令和6年度末に諮問委員会から答申のあった「一般会計の財源確保」の具現化について、さらには委員会の再編等について協議しました。冒頭の会長挨拶の中で、全連小総会・研修会での文部科学省初等中等教育局教育課程課長武藤久慶様のご講演「今後の小学校教育の方向性について」の内容を話題にし、講演の内容から、私たち校長に求められることについて、わかりやすく説明されました。これに関連した内容が会報198号の「会長あいさつ」で述べられていますので、ご確認ください。

県連小理事会では、県教委から講師を招いての研修も行っています。

今回の理事会では、義務教育指導課教育指導監 小池紘太郎様から「多様性の包摂を軸にした授業改善と組織マネジメント」と題してご講話を賜り、その後、グループに分かれ、それぞれの実践等を出し合うなど、協議を行いました。



中国地区小学校長会を主管します

今年度、広島県が中国地区小学校長会の「主管」の役割を担っています。

この会は、全国連合小学校長会と連携を保ちながら、各組織団体相互の連絡を緊密にし、各組織団体会員の職能の向上と小学校教育の充実刷新を図ることを目的とし、会議（理事会・研修会、連絡協議会）並びに大会を開催します。主管する県はこれらの企画・運営を行います。



主管する県の会長（高尾会長）は、中国地区小学校長会の会長並びに全国連合小学校長会の常任理事も担い、大変多忙な一年になります。ただ、その関係で国や全連小の動きについて入手しやすい立場であり、それを生かして一層詳しく状況説明をしていただいております。

中国地区小学校長会理事会・研修会について

この会は、年3回開催します。第1回を7月最終金曜日、第2回を中国大会前日、第3回が2月の第1金曜日に開催します。

第1回のみ、理事会・研修会の後、運営部、調研部、対策部、広報部、事務部の5部会に分かれての連絡協議会を開催します。

理事会・研修会では、中国大会に係る提案を中心にした協議と情報交換等を行います。この情報交換や連絡協議会における情報交換に向けて、必要に応じて、理事の皆様へ情報提供をいただいております。この内容については、理事会で報告し、各校長会にフィードバックしています。

中国地区小学校長会教育研究大会広島大会について

大会の企画・運営は、現地実行委員会（福山市小学校長会）と県連小教育研究委員会、県連小事務局の三者が、それぞれの役割分担のもと、相互に連

携・協力しながら準備を進めています。

とりわけ、現地実行委員会は令和6年度から、三か年にわたって綿密な準備を行い現在に至っております。全体会場、分科会会場にも何度も足を運ばれるなど、組織的、計画的、精力的に進めていただいております。

各部門の準備の進捗状況の報告や協議は、高尾会長をトップとした大会実行委員会で行います。大会実行委員会の構成メンバーは、県連小の総務会役

員と現地実行委員長、広島市小学校長会長、副会長、教研部長で構成していますので、総務会の開催に合わせて行っています。

現地実行委員会は、この夏季休業期間中も全校長会員が参加する拡大実行委員会を行うなど、猛暑の中、懸命に準備を重ねていただいています。



「県連小一般会計の財源確保について」（答申）の具現化にむけて

県連小の一般会計は、単年度会計の赤字が継続しており、危機的状況にあることから、令和6年度に、山田会長（当時）の諮問のもと「一般会計の財源の確保について」諮問委員会を設置し、検討を行いました。その答申が同年度の第4回理事会で出され、次のとおり取り組むことが示されました。

「支出削減に関するもの」として

- (1) 「もみじ」等印刷物発行方法を検討する。
- (2) デジタル化やオンライン化を進める。

「収入増に関するもの」として

- (3) 基金から研究大会へ補助金として拠出する。
- (4) 負担金の増額を検討する。
- (5) 県連小と広島県公立中学校長会（以下「県中」という。）との負担金・会費の納入についての「申し合わせ」を見直す。

(6) 有価証券や信託などを利用した資金運用を検討する。

(7) 大会冊子への企業広告掲載や賛助金等を検討する。

以上、7点について、今年度も引き続き、検討を重ねています。

ご承知の通り、今年度、一般会計が残不足となり基金の取り崩しを行っております。これ以外にも様々な検討・努力を重ねており、状況については、各地区の代表者が出席される理事会で随時報告してまいります。

全連小各種委員会調査の実施

全連小の今年度のテーマは、「夢を語り合い、ともに未来の教育を描く」です。

松原会長は、「課題の多い「今」への対応に追われるあまり、教育本来の喜びや希望を見失ってはならない。目の前の子どもたちとともに悩み、ともに成長していく。これほど大きなやりがいと使命感のある仕事

が、他にあるだろうか。私は、教職という道を選んだことに、深い誇りを感じている。」と述べられています。

さて、全国連合小学校長会は、活動の価値や意義を、「つながり」「学び」「国に声を届ける」ことであるとしています。「国に声を届ける」ためにも、組織の総力をあげて「調査・研究活動」の充実に努めるとともに、積極的に施策提言を進めています。7月8日（水）には、「小学校教育の充実に係る文教施策並びに予算についての要望書」を、高尾会長も出席され、文部科学省、財務省、総務省へ提出され意見交換が行われました。そのもとになるものが全連小各種委員会調査等で明らかになった現場の声です。

今年度も全連小の対策部、調査研究部に所属する10委員会が調査を行います。今年度も全調査をWebで実施する予定になっています。

調査対象校の校長先生には所属地区の県連小理事より、該当委員会調査の調査票へのアクセス方法が示された依頼文が送られます。

調査対象校に選ばれた校長先生、大変お忙しい中ではございますが、ご協力お願いいたします。

